世界の街から

新潟日報社が開設した米ニューヨーク、中国・上海、欧州（パリ）の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子を紹介してもらいます。ウェブサイト新潟日報デジタルプラスにも掲載し、感想や意見を受け付けています。

第1月曜掲載

助け合いが当たり前

本間 和寛さん
新潟市西蒲区出身

全校40人ほどのイスタンブール日本人学校で小学部の教員をしています。イスタンブールはトルコ最大の都市で、人口1600万人、観光、ビジネス、文化の中心としてにぎわっています。

世界有数の親日国で生活していると、たびたび親切にしてもらうことがあります。しかしそれは親日国ということを別にして、トルコ人本来の気質によるところが大きいと思います。

バスや地下鉄に乗っていると、お年寄りや小さい子どもに、必ずと言っていいほど席を譲る姿が見られます。中学生ぐらいの男の子が、私に席を譲ってくれたこともありました。人を助けたくてうずうずしているような気さえします。

逆にこちらに住んでから、現地の人に助けを求められたことも多くあります。一番多いのは道を尋ねられたことです。「このバスはどこまで行きますか?」「このお店はどこにありますか?」とトルコ語で聞いてきます。他にも、モスクにいるおじいさんに手招きされたので恐る恐る近づいてみると、「足が悪くて段差を降りられないから手を貸してくれ」と頼まれて手を貸したこともありました。

明らかにトルコ人ではない見た目の私にためらうことなく助けを求めてきます。この国では、困ったことがあったら助け合うことが当たり前なのだと強く感じました。

ウクライナ情勢が緊迫しています。北大西洋条約機構（NATO）加盟国でありながら、経済面でロシアと深くつながるトルコの国民生活に大きな影響を与えています。市民がよく使うひまわり油もその一つ。ひまわり油の高騰や品切れのうわさが流れて買い占めが起こり、商品が消えました。天然ガスも大部分をロシアから輸入しています。そのため、ガスの高騰も懸念されます。

トルコ国民は感情的にはロシアの侵攻に憤りを感じながらもロシアに依存している部分も多くあるため、非難しにくい事情を抱えています。一刻も早い情勢の安定を黒海の向こうから願っています。

（本間さんは1984年生まれ。2010年から新潟市内の小学校教諭として勤務。21年にイスタンブール日本人学校に赴任しました）

察官の環境

関川 実来さん
新潟市西区出身

from グアテマラ

昨年11月の地域警察グアテマラ動を共にし「市民から地域住民と私たちのミ日々、彼察官との違例えば、を水シャワ洗濯も自分まりし、8巡査の月円に換算すなどはないのは容易でパトカーに乗せ、犯製のピック日本のピカに、慢性的が満足にで た外観に、が目立ちま

また、こを着用しまきや、襲撃よう備えて

そして、締まりではトベルト着銃器の不法務となりま

こちらの倍というデく2人以上